

峠越え、ひろがる元快樂

川津南やっちみる会 住みよい故郷班 班長 恵美須 明美 (西予市)



わいわいサロン



こんにやく芋栽培

◆概要と背景

私の住む川津南は西予市城川町、高知県との県境に位置し、冬には雪がたくさん積もることもある僻地の山村です。ここに平成22年「川津南やっちみる会」が発足しました。会のスローガンは、「元気で長生き、快適に住み良い、楽民と助け合い、楽しい地域づくり」、つまり「元快樂楽」です。

地域の人口は230人余り、高齢化率は41・5%、いわゆる限界集落にはまだなっていないませんが、この数字に危機感を抱いた若者たちが「維新の会」を立ち上げたのは平成17年、消防団員とそのOBたちがメンバーでした。彼らの団結力は強く、幕末の土佐藩士たちが脱藩して通った九十九曲峠の「脱藩の道」の整備など、地域の活性化に取り組んでいました。そこに平成21年西予市の社会福祉推進事業調査が実施され、翌年「生き活き集落づくり事業」が始まり、「やっちみる会」の活動を始めることになりました。自分たちが持っているノウハウを生かし、実践する力を持った維新の会の若者たちの活動が基盤となり、活動はスムーズに進みました。住民全員が会員になり、年会費は各戸1,000円、「住みよい故郷班」、「笑顔で暮らせる故郷班」、「楽しく集う故郷班」という3つの班で活動しています。

◆やっちみる会の活動

(1) 活動の主なものを紹介すると、**避難訓練と夏祭り**

会自作の防災マップを利用して、地震発



避難訓練

生のサイレンを合図に、各区の1次避難場所に集合し、次に地域の中心部にあるグラウンドに集合します。ここ3年の平均所要時間は45分、全住民の約80%が参加、消防署から救急救命の講習などを受けます。そして次には、お待ちかねの夏祭り、若者たちの出番です。前日には彼らがどこからともなく資材を搬入し、あつという間に会場を設置、その手際の良さにはびっくりです。たくさんさんの屋台がならび、地域外から戻ってきた家族や親類で普段の住民の3倍もの人の行列。おなじみの焼きそばや焼き鳥はもちろん、みんなで作ったピザ釜で焼き上がったピザは大人気でした。翌日の後かたづけは大変ですが、若い彼らは県道の除草まで



川津南楽念仏

夏祭り



して反省会を開催、そのエネルギーには感謝、脱帽です。

(2)コンニャクの栽培とブランド化

現在では多くの特産物が開発され、珍しいものを見つけたのは難しいほどの状況になっています。ブランド品を開発するなど無理だろうと、私は内心思っていました。ところが行政から提案があり、協力する業者も見つかり、会員の中から25名が生産者になり、「やっちみる会栽培生コンニャク」として販売されるまでになりました。中心になつて指導してくれる人材がいるおかげで、我が家でも農業に不慣れな夫が張り切っています。

(3)わいわいサロン

毎月第2と第4土曜日はわいわいサロンの日です。地域の器用な先輩の方たちに講師をお願いして、しば餅や竹かご、しめ縄作り、そして会の名物になったピザ焼きなど、若いお母さんや子どもたちも集まって、わいわいがやがやと盛況です。このサロンは1ターンの女性会員が中心になり、高齢者や子育て世代への支援を目的に開いています。若者とは年齢が若いということではない、生き方のことだと言われますが、まさに彼女たちは若者です。

◆地域の宝

なぜ若者たちが多いのかと問われることがあります。家庭教育につきるのだと思います。就職が難しい今の時代にもかかわらず、この地に残ることがいかに大切であるかを、子どもたちにその生き方を通して示

してきた親たちの家庭教育が、実を結んでいるのだと思います。

ここに住む決意をした若者たちの動機は、「30歳になったから」、「結婚して子どもが生まれ、親と一緒に子育てをしてもらいたいから」、「親の面倒を見なければならぬから」など様々ですが、彼らはしっかりとこの地に根付き、地域を支えてくれます。西予市は日本ジオパークに認定されましたが、そのコンセプトの一つは「地域の宝探し」で、まさにやっちみる会の若者たちは地域の宝です。

◆これからの課題

やっちみる会が発足してまだ4年、若い世代は子育てに忙しく、学校行事や各方面での役員も引き受けねばならず、彼らの負担は大変です。その負担を減らし、省ける行事を「やめてみる」ことも重要な課題です。また地域の現在の子どもたちは17人、この子どもたちが両親たちのようにこの地に残ってくれるだろうか？それこそが家庭教育にかかっています。住民みんなと一緒に若者たちを支援し、一人でも多くの子どもたちが誇りを持ってこの地に残れるように「やっちみようー」と思います。



救命講習